

平成29年度 学校評価表【自己評価】

三次市立甲奴小学校

経営理念(ミッション・ビジョン)
 自ら夢を持ち、国籍も言葉も違う人々が集う未来社会を、世界的な難題解決に向けて話し合い他者と強調し協働して生きていくことができる力をつける。
 ○育てたい資質・能力(知識・情報、コミュニケーション能力、耐える力、思いやり)
 ○グローバルマインド(強い意志、思いやり、郷土愛)の育成

<学校教育目標>
 すすんで きたえ みがき のびる
 (社会の変化に対応できる心豊かでたくましい子供の育成)
 <めざす学校像>
 ○すすんで……………子供の主体性を伸ばす学校
 ○きたえ・みがき……………個々の持ち味を発揮させる学校
 ○のびる……………得意なことを引出し、自信を持たせる学校

<甲奴中学校区のめざす子供像>
 「ふるさと甲奴を誇りに思い、主体的に学ぶ子供」
 <甲奴小のめざす子供像>
 ☆自分が好き……夢(目標とする姿)を持ち自ら進んで最後までねばり強くやりぬく子
 ☆友だちが好き……友だちのよさを見つけ、自ら進んで一緒に働き、遊び、学ぶ子
 ☆甲奴が好き……身の回りに目を向け、甲奴のよさを見つけ自ら進んで表現できる子

評価計画				自己評価						学校関係者評価											
中期経営目標	短期経営目標	目標達成のための方策	指標 (効果を見とる目安)【担当】	目標 値	7月			12月			結果の分析	改善策	評価	コメント							
					達成 値	達成 度	評価	達成 値	達成 度	評価											
確かな学力の育成	「知識・情報・コミュニケーション」 全国水準の学力をつける(知識・技能、思考力・判断力・表現力の育成)	○基礎的・基本的知識・技能の習得と定着	・初任研の示範授業を生かし、相互に授業を見合うことによる授業力の向上 ・パワーアップタイムの充実(内容・指導の工夫) ・家庭学習習慣(開始時刻・学習時間・学習内容)の確立	・評価テスト(国語)で正答率が到達度得点を超える児童の割合【小川】	80%	86.5%	108%	A			読書計画に沿って取り組みを行った結果読み取る力がついた。しかし、算数科においては、計算ミスがあった。(7月)	国語科では、読書を継続し読む力をつける。漢字学習の充実を図る。パワーアップタイムを利用して基礎計算の学習に取り組む。数多くの問題に触れさせる。家庭学習の習慣化を身に付けさせる。									
			・外国語活動における、「聴き合い、伝え合う」場面を設定した単元づくり及び授業実践 ・「特別の教科 道徳」における、「対話」の場面を設定した授業づくり	・「対話」のある授業に関するアンケートで、肯定的に評価する児童の割合【浜井】	80%	97%	121%	A			昨年度に引き続いた道徳の実践と、やり取り指差した外国語活動を行った結果の表れと考える。(7月)	今後も、対話を意識した授業づくりを進めていく。(7月)									
			・外国語活動における主体的な学習を継続させるための単元づくり及び授業実践 ・外国語活動における次期学習指導要領を踏まえた教育課程の立案	・「対話」のある授業づくりに関する教職員アンケート結果(4段階評価の平均値)【信田】	90%	100%	111%	A			高学年を中心に単元ゴールを明確にした授業づくりができてきている。(7月)	中学年・低学年でも単元ゴールを明確にした授業展開が行えるようにする。(7月)									
豊かな心の育成	能力 規範意識を高め、思いやりの心を育成する	○規律ある学校生活 あいさつ 無言掃除 無言集合	・一斉下校・朝会時等における全体指導 ・「あいさつ名人」の認定ホルダーの活用 ・児童会掲示板による評価	・「あいさつ・無言掃除・無言集合」に関するアンケートで、肯定的に自己評価する児童の割合、及び教職員の見とる評価【山下】	あいさつ 掃除 集合	80%	83%	79%	C	80%	83%	104%	A	80%	73%	91%	B	児童会の呼びかけにより無言清掃・無言集合が定着してきた。あいさつには、個人差が見られる。(7月)	あいさつ名人認定フォルダーの活用と個別指導を継続する。		
			・ふわふわ言葉の常態化をめざす生活指導 ・児童会掲示板による評価 ・道徳の時間の充実	・「思いやりの心」に関するアンケートで、肯定的に評価する児童の割合	80%	95%	119%	A			自己評価の数値は、目標値を達成した。しかし、人を傷つけたり、心証を害する言動が未だ見られるのが課題である。	児童同士のトラブルの原因は不適切な言葉づかいである。その都度何が原因なのかをしっかりと省みるように指導する。思いやりのある言動をしっかりと評価し共有化する。									
			・ランランタイムの充実 ・水泳記録会・マラソン大会の自己目標の設定 ・なわとびカードによる技能目標の設定	・「思いやりの心」育成に関する教職員アンケート結果(4段階評価の平均値)	80%	82.5%	103%	A													
健やかな体の育成	自ら目標を持ち、進んで体力の向上、健康の保持増進に取り組む意欲・態度を育てる	○体力の向上	・ランランタイムの充実 ・水泳記録会・マラソン大会の自己目標の設定 ・なわとびカードによる技能目標の設定	・新体力テストの分析に基づく取組の結果、県平均を上回る項目の割合(11月時点)【長手】	60%						個人目標及び学年目標を考えさせたことで、自己目標を意識する児童が多くなった。しかし、水泳教室など支援がまだのため、目標値到達に至っていない。	今後も、個人目標を意識させながら、粘り強く取り組ませる。									
			・アンケートによる実態把握 ・朝食・睡眠指導	・自己目標を達成した児童の割合(アンケートによる見取り)【長手】	80%	66.7%	83%	B													
			・保護者と連携した「ストップ9」の取組(啓発資料・情報の学期2回以上の発信・児童への指導の充実)	・朝食・睡眠に関するアンケートで、肯定的に評価する児童の割合【村上・出口】	70%	89%	127%	A			規則正しい生活習慣が確立されつつあるが、個別に見ると課題のある児童がいる。	2学期からも引き続き指導(学級及び個別指導)と保護者啓発を行い、2学期末に再度調査を行う。									
			・ストップ9を達成した児童・家庭の割合(保護者アンケート)【教頭】	75%	75%	100%	A														

(自己評価) 達成度=達成値÷目標値 A:100≦(目標達成) B:80≦(ほぼ達成)<100 C:60≦(もう少し)<80 D:(できていない)<60
 【関係者評価】 イ:自己評価は適正である ロ:自己評価は適正でない ハ:分からない